がんの予防から治療まで深く関与

口腔ケアは長寿の鍵

むし歯など口腔内のトラブルに誰でも一度は見舞われた経験があるだろう。その時に実感するのが「かめること」のありがたみだ。健康で生き生きと暮らす長寿社会に向けて最近、歯科検診の重要性が注目されている。命だけでなく手術で顔面の一部を失いかねない口腔がんが早期に発見でき、さらに口腔ケアが全身のがん治療の効果を上げるからだ。早期の社会復帰を目指して口腔がんの治療と再建手術を行っている群馬大医学部附属病院歯科口腔・顎顔面外科の横尾聡教授と、群馬県歯科医師会の村山利之会長に健康長寿に向けた取り組みを聞いた。

（聞き手／上毛新聞社常務取締役　樋田康行）

最先端手術で社会復帰

口腔がん

知られていない口の中のがん

—口腔がんが最近、増えているようですが、胃がんや乳がんに比べて認知度は高くないと思います。特徴を教えてください。

横尾教授　口腔がんは口の中にできるがんの総称です。全体の約4割を占める舌がんは、聞いたことがあると思います。歯ぐき、唇、頬の内側など、できる部位によって主に7つに分類され、上顎歯肉がんなどそれぞれ呼び名があります。

加齢とともに患者が増え、平均年齢は60歳代ですが最近は20歳代でなる人もいます。鏡で観察すれば自分でも直接見られる場所にも関わらず、進行するまで見過ごされがちなのは大きくなるまで自覚症状が出にくいからです。認知度が低いことも発見が遅れる理由です。医学部の学生でも、あまり口腔がんの教育を受けていないのが現状です。

リンパ節に転移していない早期の状態であれば、手術で8割以上は治ります。いかに早く見つけて治療するかが鍵を握ります。

三つの粘膜疾患が重要です。①食べ物がしみる口内炎②粘膜が板状や斑状に白くなる白板症③頬の粘膜が白いレース状になり、その周辺が赤くただれて痛みを伴う口腔扁平苔癬—です。一部ががん化して口腔がんを発症することがあります。

村山会長　歯を磨くときに鏡で口の中の状態を常にチェックする習慣を付けましょう。粘膜の色や形がいつもと違うなど気になる症状があったら放置せず、かかりつけの歯科医院や病院の口腔外科を受診してください。

—治療方法を教えてください。

横尾教授　口腔がんの標準治療は手術です。小さい早期がんならば30分程度の手術ですが、大きくなったり、頸のリンパ節に転移している場合は顎や舌の大半を切除するなど大手術になってしまいます。手術以外の方法は、治療効果がまだ完全に証明されていません。

がんを切除しても、舌を失ったり顎が無くなるなど顔が変形してQOL（生活の質）が大きく下がり、日常生活が送れなくなる問題も生じかねません。できるだけ元の状態に近づける再建手術が確立されていますが、大きな手術になることもあります。何よりも早期の発見が大切です。

—それでは、早期に発見するためにはどうしたらいいでしょう。

横尾教授　かかりつけの歯科医院で定期的にチェックしてもらうのが理想です。むし歯や歯周病も早期発見すれば歯を失わずに済みます。気になる症状があったら歯科医院で相談すること。がんが疑われる場合、歯科医師は、なるべく早く口腔がんを専門に診ている病院に紹介することをお願いしたい。がんを専門としていない歯科医師や医師が安易に診断して早期がんが進展してしまうことを懸念しています。口腔がんは進行が早いからです。

村山会長　生活習慣にも気を付けてください。寝不足やたばこや大量飲酒は発がんリスクです。合わない入れ歯による慢性の刺激などにも注意してほしいですね。

—群馬大に重粒子線による放射線療法がありますが、口腔がんには効かないのでしょうか。

横尾教授　口腔がんに対する効果についてはまだデータがありません。今後は研究レベルで重粒子線の効果を確認していく必要があると考えています。

●群馬大附属病院歯科口腔・顎顔面外科
横尾　聡教授

よこお　さとし　新潟県出身。神戸大大学院医学研究科外科学系口腔外科修了。同大附属病院形成外科医局長を経て、2008年から現職。歯科医師。医学博士。

●群馬県歯科医師会
村山　利之会長

むらやま　としゆき　高崎市生まれ。高崎市歯科医師会長を経て、2011年から現職。

再建手術

容貌と口腔機能　再建手術で回復

—現在、群馬大で行われている口腔がんの最新治療についてお聞きします。

横尾教授　口腔がんは歯科口腔外科の守備範囲。群馬大では口腔がんの治療・手術は全身医学や手術のトレーニングを積んだ歯科医師が行っています。

治療は外科手術で患部を取り除くのと同時に、再建手術を実施します。患者自身の皮膚や筋肉、骨などを、血管や神経を含めてつなぎ合わせて患部に移植する最先端の医療技術です。1980年代に手術方法が開発され、近年、口腔領域にも応用されました。再建は見た目だけでなく、食べる、飲み込む、話す、呼吸する、という口腔機能にも考慮しつつ、なるべく早い社会復帰を目指して取り組んでいます。

10時間を超える大手術になることもまれではありません。がんが進行して広範囲に転移している場合は、患部を大きく切除して余命を延ばすか、QOLを下げずに残りの人生を本人の希望が少しでも多くかなうように送ってもらうか、厳しい選択を迫られることもあります。

口腔がんは、がん細胞の約9割が扁平上皮がんと呼ばれる種類で、早期ならば肺や肝臓への転移はまれです。なるべく早い段階で診断し、治療できればと思います。

手術用顕微鏡を使い1、2ミリの血管や神経をつなぎ合わせる再建手術を行う横尾教授（左）＝群馬大附属病院

切れ目ない歯科検診を

定期検診

口の衛生状態　周術期も大事

—成人が歯を失う原因として知られる歯周病は、糖尿病や誤嚥性肺炎、認知症など全身の病気にも影響を及ぼします。

村山会長　口腔内の衛生状態を保てば、全身の健康状態も良くなります。診療科は違っていても、口と体はつながっているわけですから全身疾患と関係するのは当たり前ともいえます。

横尾教授　口腔がんに限らず、全身のがん治療で抗がん剤を使うと副作用で口内炎が多発することがあります。その結果、食事が思うように取れなくなり、その後のがん治療全体にも悪い影響を与えます。口腔ケアは治療を始める時点から必要で、チーム医療に歯科医も関わるようになっています。

村山会長　「周術期の口腔ケア」といい、群馬県歯科医師会でも県内の「がん診療連携拠点病院」「がん診療連携推進病院」と連携した取り組みが始まっています。

—口腔ケアの大切さは分かりました。しかし、無症状で歯科検診を定期的に受けるのは難しいのでは。

村山会長　痛くもないのにかかりつけの歯科医院で定期的な検診を受ける、というのは面倒かもしれません。実際に歯周病も口腔がんも進行しないと自覚症状が出ないので受診するのが遅れがちです。

高校生までは学校で歯科健康診査がありますが、高校を卒業するとその後は検診の機会がなくなってしまうのが現状です。口腔がんの早期発見につなげるためにも、群馬県歯科医師会として今後、切れ目のない歯科検診の実施を県や市町村など自治体にお願いしていきたい。

推進計画

歯科保健大会で啓発イベントも

超高齢社会に医療連携重要

—昨年4月に「群馬県歯科口腔保健の推進に関する条例」が制定され、ことしから「群馬県歯科口腔保健推進計画」がスタートしています。

村山会長　一番の目的は、言うまでもなく健康寿命の延伸です。超高齢社会の中、歯と口腔の健康を保つことが健康長寿につながることが分かってきています。

推進計画に基づいて、専門家である歯科医師、歯科衛生士は口腔ケアの必要性、それもセルフケア（予防）と専門家によるケア（治療）の両輪が基本であることを広く啓発していく使命を担います。

乳幼児や学童期のむし歯は減っていますが、市町村によってバラつきが生じています。一方、介護を必要とする在宅・施設入所の高齢者の口腔ケアは実態があまり把握されていないのが現状です。

歯科領域の医療に携わる専門家として、それぞれの課題解決に向けて積極的に取り組んでいかなければなりません。

横尾教授　県民の健康を保つには、医療連携がますます重要になると考えます。医療従事者は疾患（病気）を診るのではなく、患者（人、病人）をみる、と考えれば「医科と歯科」に分けて考える意味合いは薄れてきていると思います。

村山会長　群馬県は大沢正明知事の尽力により国から地域活性化を目指す「がん特区」の指定を受け、医療産業拠点づくりを積極的に推進しています。口腔がんの手術で全国でも5本の指に数えられるような横尾教授に続く高度ながん医療人材の育成・輩出に向けて、群馬県歯科医師会としても全面的に協力していきます。

—ことしで24回を数える群馬県歯科保健大会が11月27日に前橋で開催されます。22日には県民を対象に公開講座も行われます。

村山会長　県民の皆さんに口腔ケアの重要性を知ってもらう良い機会だと思います。私たちの願いは一つです。

「食べること、健康であること、美しくあること　全ては人々の幸せのために！」

11/22 土

入場無料（申込不要）

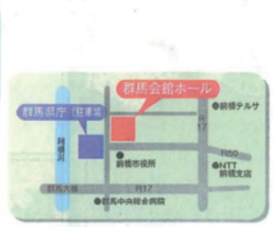
平成26年度 第24回 群馬県歯科保健大会

県民公開講座

〜健康寿命を延ばすために〜

噛む事と頭がい骨及び大脳の発育、成長、維持との関連について

東京歯科大学　解剖学講座　教授　阿部　伸一　先生



会場　群馬会館ホール　前橋市大手町2-1-1（県庁駐車場をご利用下さい）

時間　14：00〜16：00（受付13：30〜）

群馬県のマスコット「ぐんまちゃん」

主催　群馬県・群馬県教育委員会・群馬県歯科医師会・群馬県学校歯科医会

お問い合わせ先　群馬県歯科医師会　〒371-0847 前橋市大友町1-5-17　TEL.027-252-0391

○平成26年11月17日付　上毛新聞5面に掲載されました。